

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K01875

研究課題名(和文)赤ちゃんにやさしい病院における母乳育児ベンチマークの作成

研究課題名(英文)Creating a Breastfeeding Benchmark in a Baby Friendly Hospital

研究代表者

西巻 滋(Nishimaki, Shigeru)

横浜市立大学・附属病院・教授

研究者番号：20275043

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：WHOとUNICEFから認証されている「赤ちゃんにやさしい病院」で母乳育児を成功させる要因を解析した結果、(1)1か月時の高母乳率の維持のために支援が必要だと考えられた。(2)2,432組の母子で1か月時の母乳栄養を調査した。初産婦では、完全母乳栄養は母親の年齢が24～26歳までが90%以上であったが、20歳台後半から80%となり、30歳台前半から70%前後と低下し、40歳台はさらに低下した。一方、経産婦では、完全母乳栄養は20歳台から30歳台後半まで80%以上で低下傾向は乏しかった。初産と経産で母の年齢が母乳育児へ関わった。(3)2007～2018年の12年間の母乳育児の報告書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

WHOとUNICEFから「赤ちゃんにやさしい病院」として認証されている施設で母乳栄養を調査した。母乳育児を成功させる要因として、(1)高い母乳栄養の維持のために母親への支援が必要だと考えられた。(2)2,432組の母子で1か月時の母乳栄養を調査した。初産婦では、完全母乳栄養は母親の年齢が24～26歳まで高かったが、20歳台後半から80%となり、30歳台前半から70%前後と低下し、40歳台はさらに低下した。一方、経産婦では、完全母乳栄養は20歳台から30歳台後半まで80%以上で高かった。初産と経産で、母の年齢が母乳育児へ関わることが分かった。

研究成果の概要(英文)：As a result of analyzing the factors that make breastfeeding successful in a "baby friendly hospital" certified by WHO and UNICEF, (1) it was considered necessary to support for maintaining a high breastfeeding rate at 1 month. (2) A total of 2,432 mothers and infants were examined for breastfeeding at 1 month. In primiparas, 90% or more of mothers aged between 24 and 26 had full breastfeeding, but from the latter half of the 20s to 80%, it decreased from around the first half of the 30s to around 70%, and fell further. On the other hand, in breastfeeding mothers, the total breastfeeding rate was 80% or higher from the 20s to the late 30s, and the decline tended to be poor. The mother's age was involved in breastfeeding at the first birth and postpartum. (3) Prepared a 12-year breastfeeding report for 2007-2018.

研究分野：小児科

キーワード：母乳 栄養 母乳栄養 母乳育児 母乳率

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 厚生労働省の「健やか親子 21」では、母子の健康増進のために母乳育児を推進し、生後 1 か月の母乳率を 60%に上げたいとしている。これまでも母乳育児についての研究は散見される。それらは生涯発達看護学領域に多く、画像や SNS などのツールを用いた母乳育児支援に関するプログラムの作成等が研究されている。しかし、一つ二つの働きかけで母乳育児が進む部分は小さく、多種の因子が関与し影響し、効果を発する部分があると実感する。

(2) しかし、母乳育児を成功させる多因子の複合体は捉えられていない。母乳育児に成功している医療施設の姿を総合的に検討し、それをモデルとし、他医療機関が目指す具体的な目標を明示する必要がある。

2. 研究の目的

(1) 母乳育児に成功し、WHO と UNICEF から「赤ちゃんにやさしい病院(Baby Friendly Hospital: BFH)」として認証されている施設から母乳育児を成功させる要因を解析し、母乳育児を推進する上での方略を得ることが目的である。

(2) 母乳育児に関する多施設共通フォーマット上のデータを作成・提示することでベンチマークとして使える。

3. 研究の方法

(1) 研究対象は我が国の BFH72 施設のデータである。母乳育児を成功させる要因と阻害する要因を、施設の規模別に、各因子の変遷も加味しながら、解析する。

施設の規模は、産科単科施設(産科婦人科を有し、それが主である施設)、一般病院(産婦人科以外にも複数の診療科を有するが、周産期母子医療センターの認定は受けていない施設)、周産期センター(産婦人科以外にも複数の診療科を有するが、周産期母子医療センターの認定を受けている施設)の 3 種類に分けた。

(2) 母体年齢、初産・経産の別、経膈分娩・帝王切開分娩の別、出生体重、在胎週数、母子の疾患などを因子として、母乳育児の基礎データを作成する。

4. 研究成果

(1) 母乳育児の成功の秘訣を探った。

平成 29 年度および 30 年度に BFH から提出されたデータから、1 か月時に高い母乳率であれば、その後も母乳で育つ赤ちゃんの率は高いことが分かった。そこで好成績の施設を訪問した(平成 28 年舞鶴共済病院(京都府舞鶴市)、平成 29 年津軽健生病院(青森県弘前市)、あわの産婦人科(富山県下新川郡入善町)、平成 30 年春ウイメンズクリニック(宮城県名取市))。一方で母乳育児の推進に苦勞している施設も訪問した(平成 29 年旭川医大(北海道旭川市))。

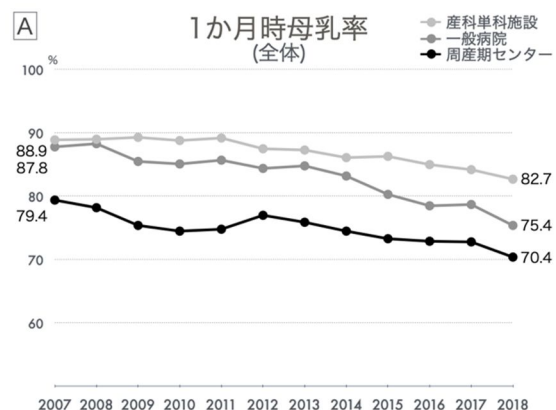
それらの訪問結果から見てきたのは、対象となる母子を取り巻く育児環境(母親の健康やサポート体制など)とそこに関わる医療側の介入(継続的な母乳育児支援)が大きな要因だと考えられた。母親の母乳育児に対する思いとそれを支える周囲環境の整備への注力も肝要であろう。高母乳率の維持のために支援が必要だと考えられた。

(2) 2007~2018 年の 12 年間の母乳育児の報告書を作成した。

完全母乳率の変化

報告書では 2007 年から 2018 年の我が国の BFH でのデータを集積・解析した。この 12 年間で、我が国の BFH で分娩・出生した母子は 40 万人を超え、大きなデータであった。

2007 年から 2018 年にかけて 1 か月時の完全母乳率を検討した。この 12 年間で、産科単科施設では 89.8%から 82.7%となり、7.1%の減少だった。一般病院は 87.8%から 75.4%となり、12.4%の減少であった。周産期センターでは 79.4%から 70.4%に下がり、9.0%の減少であった。

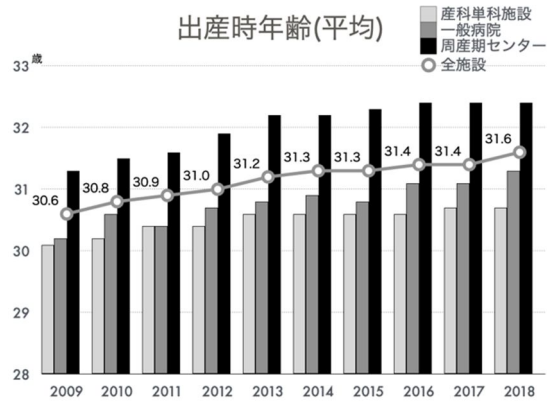


出産時の年齢の高年齢化

厚生労働省の「我が国の人口動態」によると、出産時の年齢はこの10年で1歳ほど上昇している。赤ちゃんにやさしい病院(BFH)で分娩をした母親の出産時の年齢を検討すると、出産時の年齢は、赤ちゃんにやさしい病院(BFH)の施設の性格によって幅があり、周産期センター>一般病院>産科単科施設の順で高く、これは2009年から2018年まで同じ傾向であった。全体でみると、2009年では出産時の平均年齢は30.6歳であったが、2018年には31.5歳と、高年齢化を認めている。しかし、2014~2015年頃から2018年にかけて高年齢化はやや鈍化している印象である。

完全母乳率の低下に、この母親に出産時の高年齢化が寄与している可能性が高い。

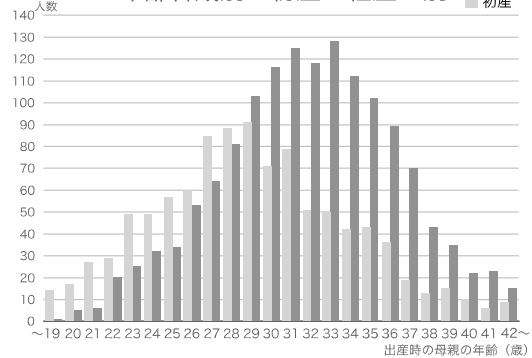
出産時年齢(平均)



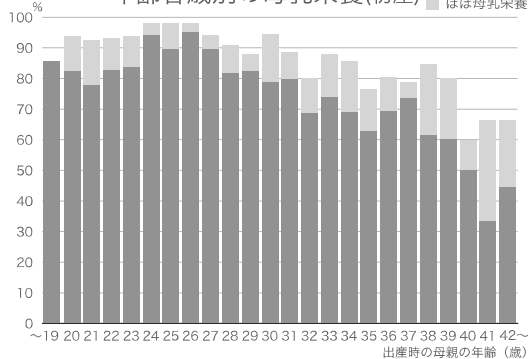
初産と経産の違い

初産婦の完全母乳栄養は、母親が24歳から26歳までが90%前後でピークを認めたが、その後の低下傾向が強く、30歳前後から80%を下回り、30歳台半ばから後半には70%前後となった。40歳台は50%を下回った。ほぼ母乳栄養までを含むと、20歳から30歳までは90%以上だったが、やはり30歳を過ぎると低下し、30歳台半ばから80%前後になった。一方、経産婦の完全母乳栄養は、母親が24歳から26歳頃に90%を越えてピークを認めたが、その後の低下傾向は弱く、40歳を過ぎても80%以上を示した。

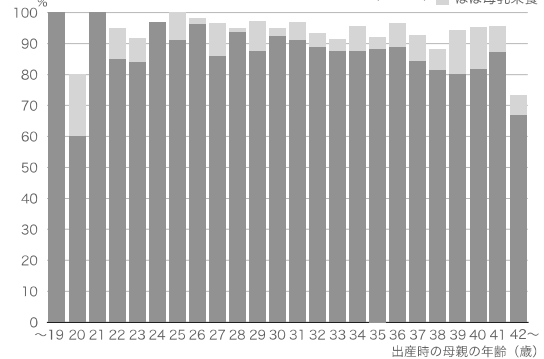
年齢各歳別の初産・経産の別



年齢各歳別の母乳栄養(初産)



年齢各歳別の母乳栄養(経産)



母親の高年齢化だけでなく、初産と経産の違いによっても母乳栄養の割合への影響があった。総合的に多種の因子の関与がうかがえた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 西巻 滋 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 小児科医と母乳育児－現場で押さえておきたいポイント－ | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 山口県小児科医会会報 | 6. 最初と最後の頁 59-63 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 西巻 滋 | 4. 巻 50 |
| 2. 論文標題 睡眠・泣き | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 小児内科 | 6. 最初と最後の頁 963-966 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 西巻 滋 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 小児科医と母乳育児 - 現場で押さえておきたいポイント - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山口県小児科医会ニュース | 6. 最初と最後の頁 14-17 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西巻 滋 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 小児栄養 - 母乳栄養のコンセプトを考える - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 MedPeer | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 西巻 滋 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 小児科医と母乳育児-現場で押さえておきたいポイント- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山口県小児科医会会報 | 6. 最初と最後の頁 59-63 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 西巻 滋, 久保 実 | 4. 巻 28 |
| 2. 論文標題 周産期センター、大学病院がBFHになるために | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 日本成育新生児医学会雑誌 | 6. 最初と最後の頁 240-243 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 周産期の現場から考える赤ちゃんの育み方 |
| 3. 学会等名 山口県周南小児科産婦人科合同勉強会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西巻 滋, 奥谷貴弘, 近藤裕一, 谷村 悟, 永山美千子, 平林 円, 山田 学, 依田 卓 |
| 2. 発表標題 データ管理委員会報告 |
| 3. 学会等名 第27回母乳育児シンポジウム |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 赤ちゃんにやさしい病院が目指すゴールを考える |
| 3. 学会等名 加古川中央病院母乳育児講演会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 私たちが目指す母乳育児とは - 現場で考えるヒント、あれこれ - |
| 3. 学会等名 津軽健生病院母乳育児推進委員会講座 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 小児科医と母乳育児 - 現場で押さえておきたいポイント - |
| 3. 学会等名 山口県小児科医会総会特別講演 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 山田 学, 奥谷貴弘, 平林 円, 谷村 悟, 依田 卓, 近藤裕一, 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 「赤ちゃんにやさしい病院」における退院時ノ一か月母乳率と周産期データの関連 |
| 3. 学会等名 第53回日本周産期・新生児医学会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 山田 学, 奥谷貴弘, 平林 円, 谷村 悟, 依田 卓, 近藤裕一, 永山美千子, 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 「赤ちゃんにやさしい病院」における退院時ノ一か月母乳率と周産期データの関連 |
| 3. 学会等名 第26回母乳育児シンポジウム |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 明日からの母乳育児を考えるヒント |
| 3. 学会等名 旭川医科大学母乳育児ワークショップ講演 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 私たちが目指すこれからの母乳育児を考える |
| 3. 学会等名 立川相互病院講演 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 新生児科医の立場から母乳育児を考える |
| 3. 学会等名 第52回日本周産期・新生児医学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 2015年母乳育児データ |
| 3. 学会等名 第25回母乳育児シンポジウム |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 西巻 滋 |
| 2. 発表標題 BFHにおけるデータの経年変化を読む(2008年～2014年) |
| 3. 学会等名 第12回BFH施設連絡会議 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 西巻 滋, 山田 学, 奥谷貴弘, 平林 円, 依田 卓, 近藤裕一 |
| 2. 発表標題 我が国の「赤ちゃんにやさしい病院BFH」におけるデータの経年変化を読む(2008年～2014年) |
| 3. 学会等名 第61回日本新生児成育医学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計1件

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 西巻 滋、他 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 東京医学社 | 5. 総ページ数 219 |
| 3. 書名 時間経過で診るNICUマニュアル | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|